

平成27年度病虫害発生予報第4号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（穂いもち）	—	やや多
	紋枯病	やや少	やや少
	穂吸汁性カメムシ類	並	並
普通期水稲	いもち病（葉いもち）	並	やや多
	紋枯病	並	並
	縞葉枯病	やや少	やや少
	セジロウンカ	並	並
	トビイロウンカ(防除情報第7号)	やや少	並
	コブノメイガ(防除情報第7号)	やや少	並
大豆	ハスモンヨトウ	—	やや多
いちご (育苗床)	うどんこ病	やや少	やや少
	炭疽病 (<i>Glomerella cingulata</i>) (防除情報第6号継続)	並	並
	輪斑病	並	並
	ハダニ類	やや多	やや多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病、斑点病）	並	並
	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病	少	少
	黒点病	並	やや多
	ミカンハダニ	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	並	並
びわ	がんしゅ病	やや少	やや少
	灰斑病	並	並
	ナシヒメシンクイ	並	並
なし	ナシヒメシンクイ	並	並
ぶどう	べと病	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	並	並
茶	炭疽病	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	少	少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（穂いもち）

平成27年7月1日付け**病害虫発生予察防除情報第5号**を継続。

なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

ア 7月上旬の巡回調査（39筆）の結果、葉いもちの発病株率は3.2%（0.7%）、発生圃場率は33.3%（15.9%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、葉いもちの発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 出穂期前後にあたる7月上旬の降水量は平年より多かった。また、向こう1か月の降水量は多い見込みである。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（39筆）の結果、発病株率は0.4%（0.2%）、発生圃場率は2.6%（9.4%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は6.0%（17.6%）であった。

3. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬のイネ科雑草におけるすくい取り調査（29地点）の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は6.2頭（10.8頭）であった（表）。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別	10回すくい取りあたり虫数						発生地点率	
	H23	H24	H25	H26	平年	H27	平年	H27
ホソハラカメシ	0.5	0.7	0.9	0.3	0.5	0.9	57.7	72.4
クモヘリカメシ	0.2	0.4	0.8	0.5	0.2	0.1	13.6	17.2
シラホシカメシ	0.1	0.4	0.6	0.1	0.2	0.1	36.7	20.7
アカスジカスミカメ	4.5	9.0	18.4	4.2	10.6	5.5	79.3	79.3
ミナミアカメシ	0.0	0	0	0.0	0.0	0.0	3.4	3.5
計	5.3	9.8	21.1	5.8	10.8	6.2		

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数

普通期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（81筆）の結果、発病株率は0.0%（0.0%）、発生圃場率は2.5%（1.7%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照）。7月2日から6日にかけて、葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が県内多地域で認められた。また、7月12日に対馬市厳原で認められた。

エ 向こう1ヵ月の降水量は多い確率50%であり、本病の発生に好適である。

	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
7月1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月2日	●	—	●	—	—	—	—	—	—	●
7月3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月4日	●	—	●	—	—	—	—	—	●	4
7月5日	●	●	●	—	●	—	—	●	●	—
7月6日	—	●	●	—	—	—	—	●	●	●
7月7日	—	—	—	—	4	—	—	4	—	—
7月8日	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—
7月9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月11日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
7月12日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
7月13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7月14日	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—

発生指標	?:判定不能	—:好適条件なし	1:準好適条件1	2:準好適条件2	3:準好適条件3	4:準好適条件4	●:好適条件
------	--------	----------	----------	----------	----------	----------	--------

* 感染した場合、感染好適と判断された日から7～10日後に病斑発現

(3) 防除上注意すべき事項

ア 余り苗、補植苗は発病の伝染源となるので早めに処分する。

イ 葉いもちの急性型病斑が見られた場合は早急に防除を行う。

ウ 葉いもちの発生が認められる圃場では、穂いもちの発生予防のため穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（81筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率0.3%）。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（81筆）の結果、発生を認めなかった（発病株率0.0%、発生圃場率1.8%）。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 7月上旬の巡回調査（81筆）の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.04頭（0.04頭）、発生圃場率は21.0%（20.8%）と平年並であった。

- エ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.5頭（0.0頭）、寄生株率は23.0%（3.3%）であった。
- オ 6月16日発表の**病害虫発生予察技術情報第2号**では、ヒメトビウンカ第一世代のイネ縞葉枯ウイルスの保毒率は0.4%（1.8%）と低かった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病株は伝染源となるので見つけ次第抜き取る。
- イ ヒメトビウンカの圃場での発生に注意する。

4. セジロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月上旬の巡回調査（81筆）の結果、セジロウンカの株当たり虫数は0.4頭（0.7頭）、発生圃場率は80.2%（68.2%）であった。
- イ 7月3半旬の県予察圃場（無防除）調査の結果、株当たり虫数は29.9頭（2.9頭）で若齢幼虫主体であり、寄生株率は97.0%（68.0%）であった。
- ウ 6月26日、7月1～2日を主体に平年並の飛来があった。

5. トビイロウンカ

平成27年7月15日付け、**病害虫発生予察防除情報第7号**による。

6. コブノメイガ

平成27年7月15日付け、**病害虫発生予察防除情報第7号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量はやや多く推移している（図）。

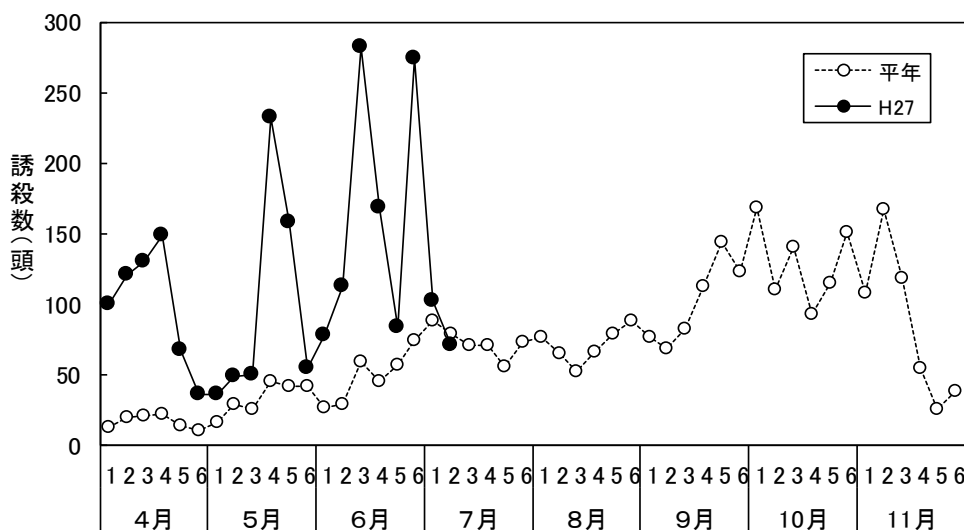


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況（諫早市小船越）（月・半旬）
 平年：H17～H26年の平均値（最大・最小値除く）

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は1.1%(3.2%)、発生圃場率は6.1%(32.3%)であった。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

平成27年7月1日付け**病害虫発生予察防除情報第6号**を継続。なお、その後の発生状況は以下のとおりである。

(1) 発生状況等

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は0.006%(0.01%)、発生圃場率は3.0%(2.3%)であった。

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は4.9%(5.8%)、発生圃場率は42.4%(43.4%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は2.5%(1.4%)、発生圃場率は18.2%(14.0%)であった。

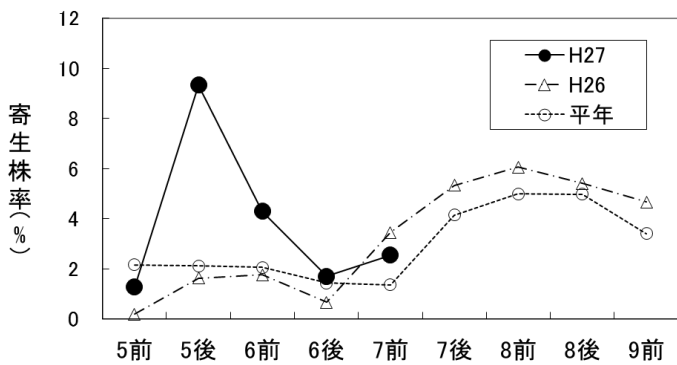


図 ハダニ類 寄生株率の推移

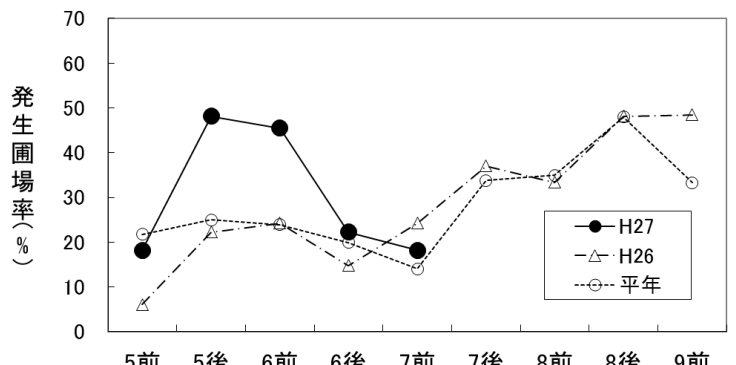


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本圃への持込みを避けるため、定植までの防除対策を徹底する。
- イ 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。
- エ 薬剤感受性低下の恐れが少なく、土着天敵に影響の少ない気門封鎖剤を活用する場合、これらの薬剤は卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。

アスパラガス

1. 斑点性病害（褐斑病、斑点病）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病側枝率は1.1%（過去8カ年平均1.0%）、発生圃場率は16.7%（過去8カ年平均29.2%）であった。

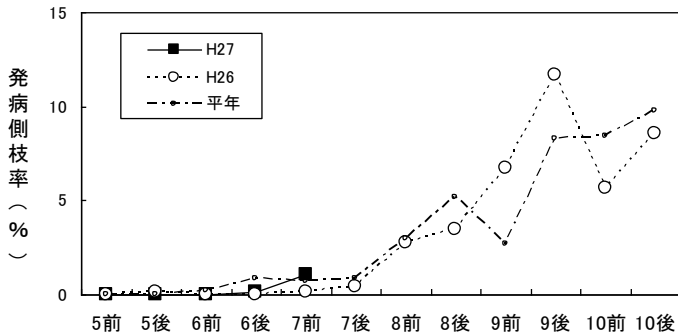


図 斑点性病害発病側枝率の推移(巡回調査)

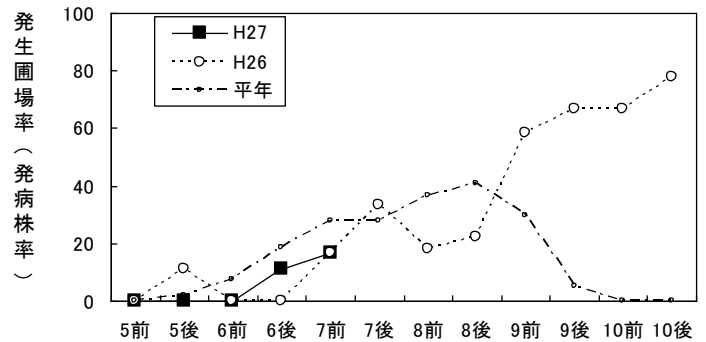


図 斑点性病害発生圃場率の推移(巡回調査)

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（12筆）の結果、払い落とし虫数（10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所）は9.2頭（過去8カ年平均11.4頭）、発生圃場率は66.7%（過去8カ年平均73.3%）であった。

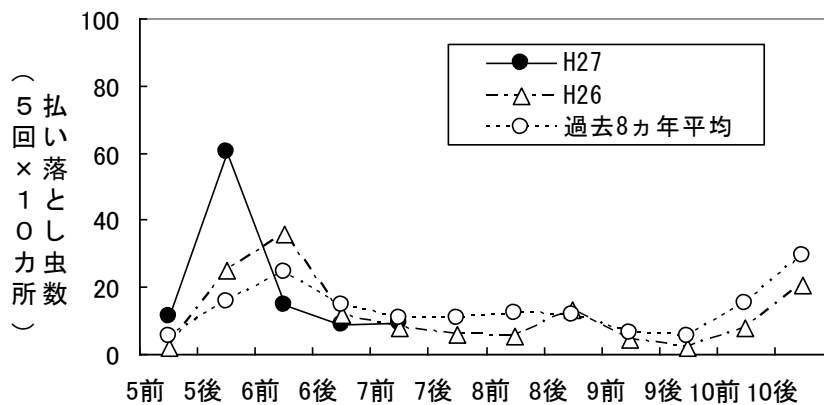


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率は0.0%（0.4%）、葉の発生

圃場率 2.8% (19.3%) であった。果実での発生は認めなかった (発病果率 0.1%、発生圃場率 5.1%)。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査 (36筆) の結果、発病果率は 3.2% (1.2%)、発生圃場率 16.7% (14.5%) で、一部多発圃場があった。

イ 向こう 1か月の降水量は平年に比べ多い見込みであり、本病の発生に好適と考えられる。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査 (36筆) の結果、寄生葉率は 17.6% (7.5%)、発生圃場率は 72.2% (42.2%) であった。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査 (36筆) の結果、果梗部の被害果率 0.8% (0.8%)、発生圃場率 16.7% (13.1%) であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日を下表に示した。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸	長崎 (平年値)
第4世代	7/19	7/19	7/28	7/21	8/1	7/20
〃 (前年)	7/19	7/20	7/28	7/21	7/30	—
第5世代	8/5	8/5	8/15	8/6	8/19	8/5
〃 (前年)	8/5	8/6	8/16	8/8	8/19	—
第6世代	8/21	8/23	9/2	8/23	9/7	8/22
〃 (前年)	8/23	8/25	9/5	8/26	9/9	—
標高 (m)	27	4	43	10	58	27

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2015年7月13日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

ウ 黄色粘着トラップ (諫早市) の誘殺量 (図) は、平年に比べ少なく推移しているが、本種の発生状況は園地の条件や地域間で異なる場合があるため、園地での発生状況の把握に努め、適期に防除を行う。

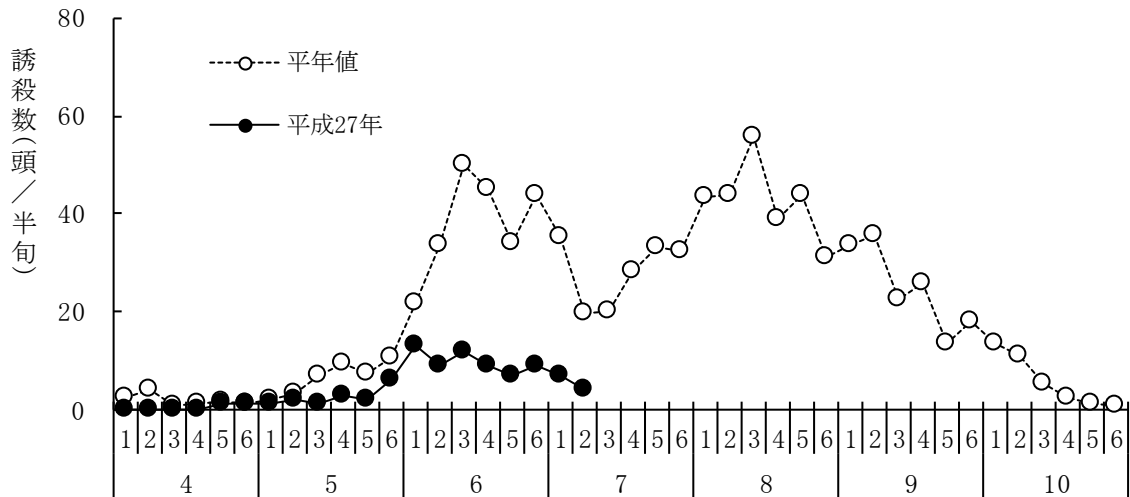


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

び わ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.0%(1.4%)、発生圃場率は10.0%(41.3%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は36.0%(34.6%)、発生圃場率は100%(97.5%)であった。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(10筆)の結果、枝葉への寄生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率0.0%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年並で推移している(図)。

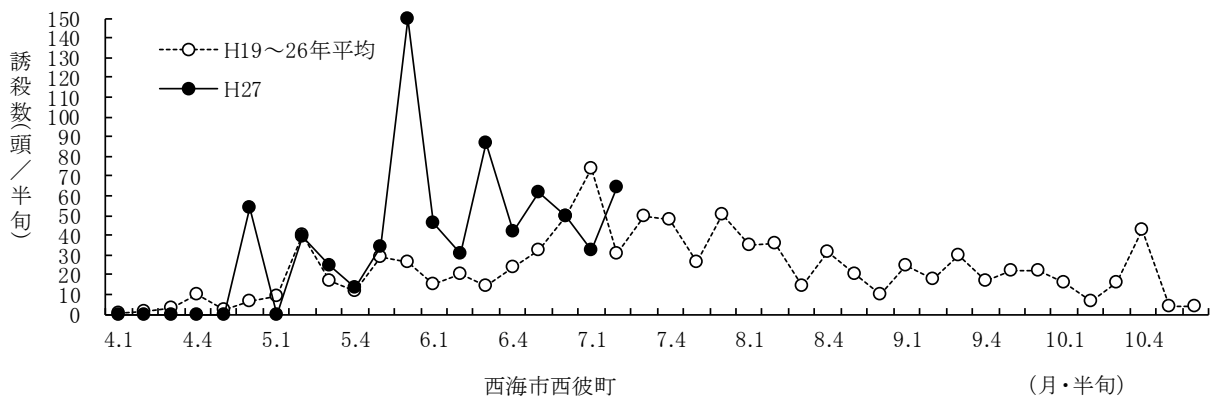
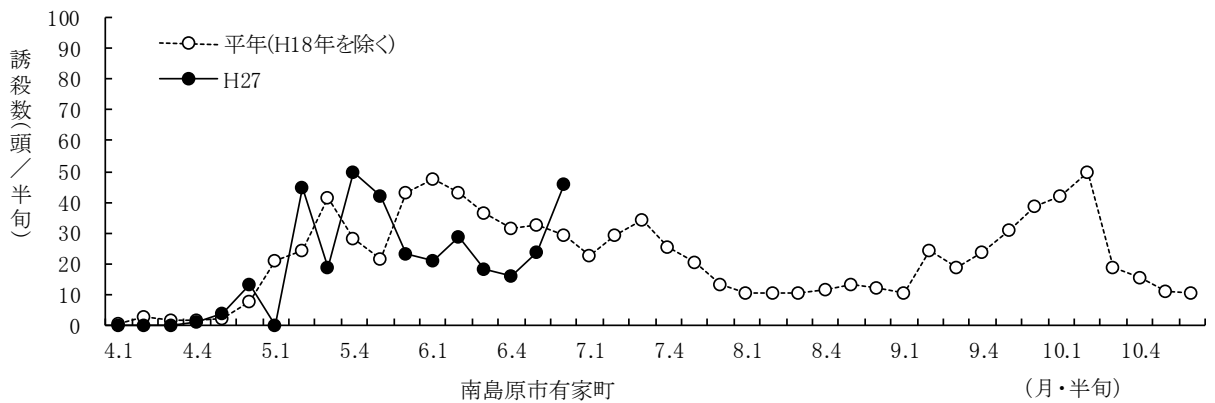
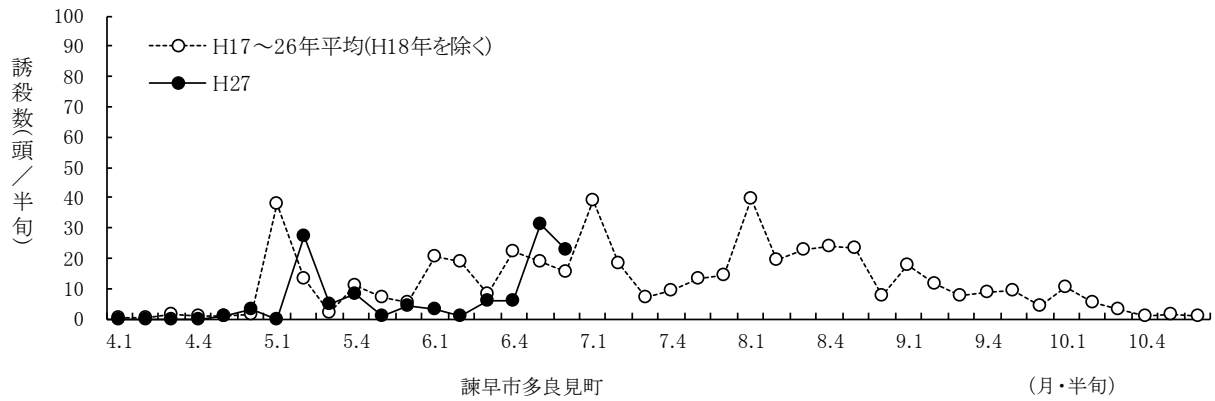
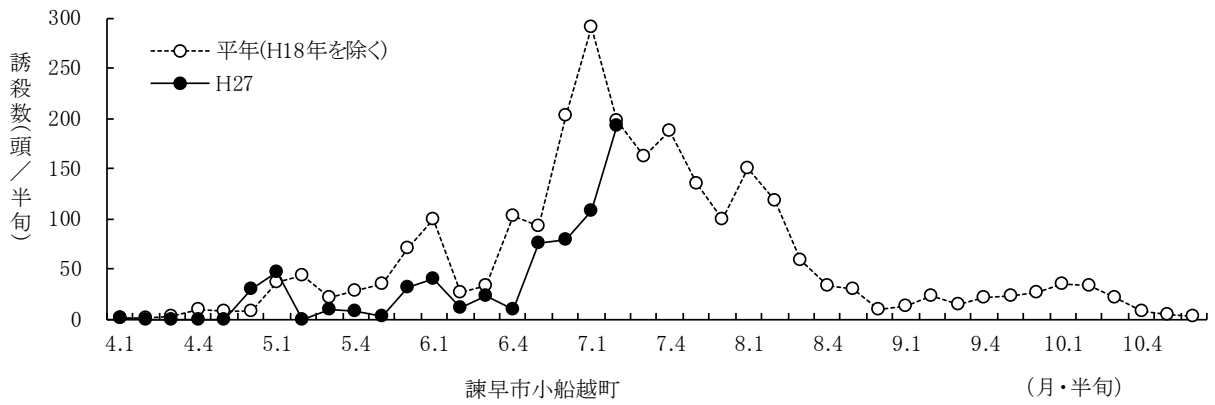


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

イ 7月上旬のかんきつ、びわおよびなしの巡回調査時には、圃場への飛来は認めなかったが、生産者への聞きとりによると、一部なし園で飛来が認められている。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり発病葉数は5.9枚（2.6枚）、発生圃場率は45.0%（51.3%）で、一部多発圃場があった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は11.8頭（10.4頭）、発生圃場率は90.0%（81.3%）であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.1枚、発生圃場率9.4%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年並で推移している（図）。

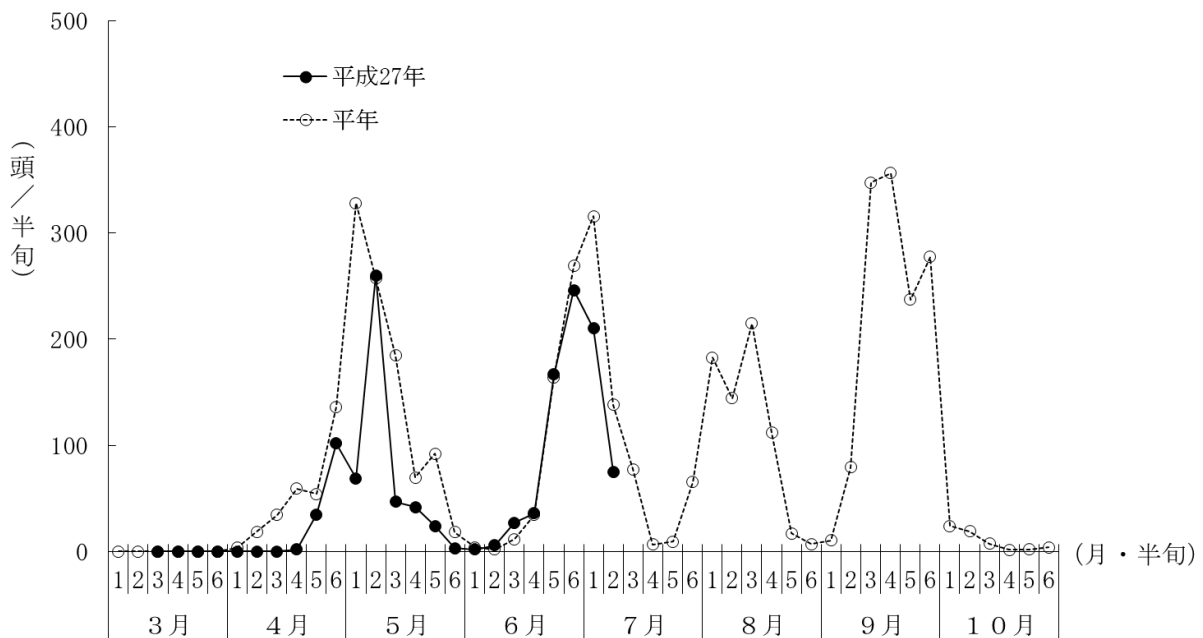


図 茶ノココクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.1枚、発生圃場率7.5%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年並で推移している(図)。

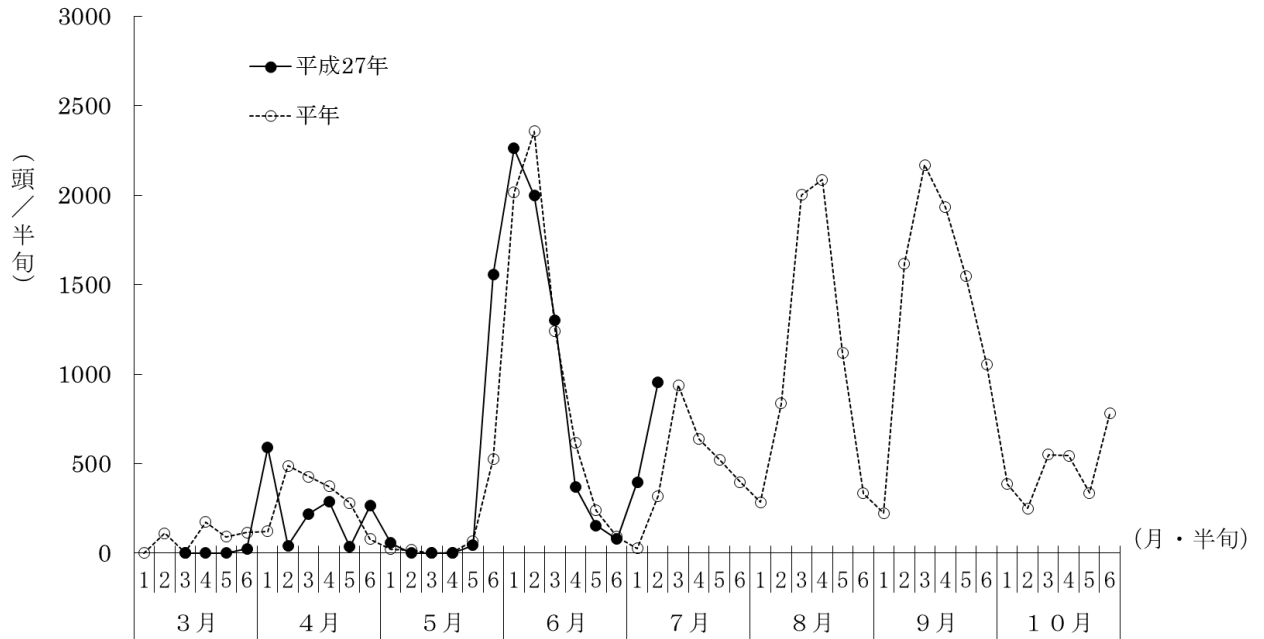


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.3%(0.1%)、発生圃場率は15.0%(7.5%)であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.8頭(2.4頭)、発生圃場率は65.0%(58.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

7月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は0.3%(6.3%)、発生圃場率は5.0%(40.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測日を参考にし、適期に防除する。
- イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測日（第2世代）

地区名	標高(m)	平成27年	平成26年	平成25年	平年 (過去10カ年)
東彼杵町太の原	360	7/23	7/29	7/21	7/25
五島市上大津	77	7/18	7/16	7/13	7/15

注1：方法は「有効積算温度則による防除適期予測法（農林技術開発センター茶業研究室）」により、東彼杵町太の原は7月1日、五島市上大津は7月14日時点で予測した。

注2：使用する気温データは、農林技術開発センター茶業研究室（東彼杵町）の測定値及びアメダスデータ（五島市）を使用し、予測日以降の気温データは平年値を使用した。なお、第1世代のふ化盛期を、東彼杵町太の原は5月18日、五島市上大津は5月11日とした。

注3：同一地区内でも標高や土地条件でふ化盛期日が異なるので注意する。

【参考】

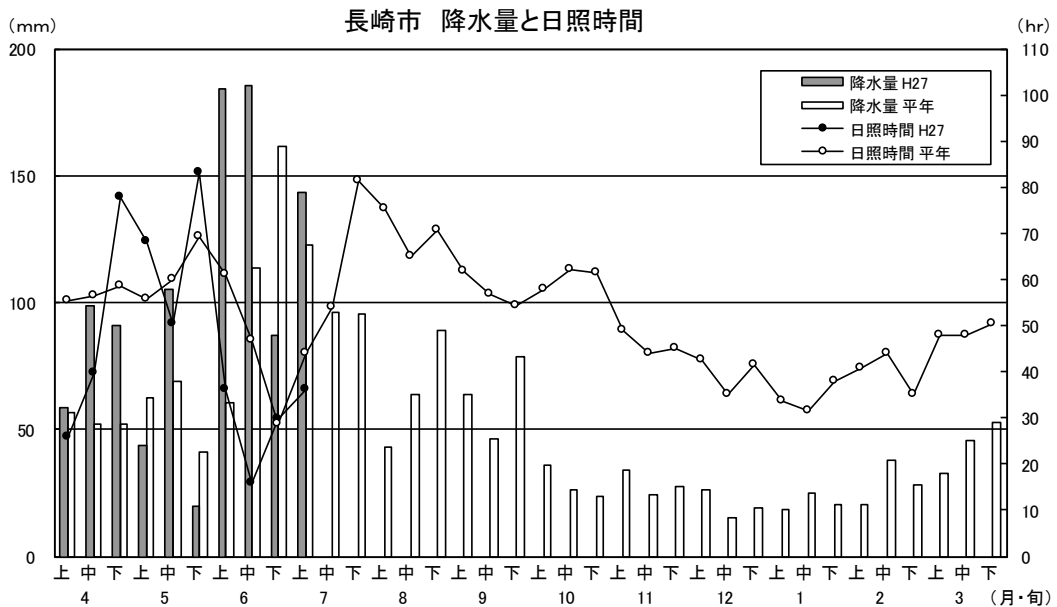
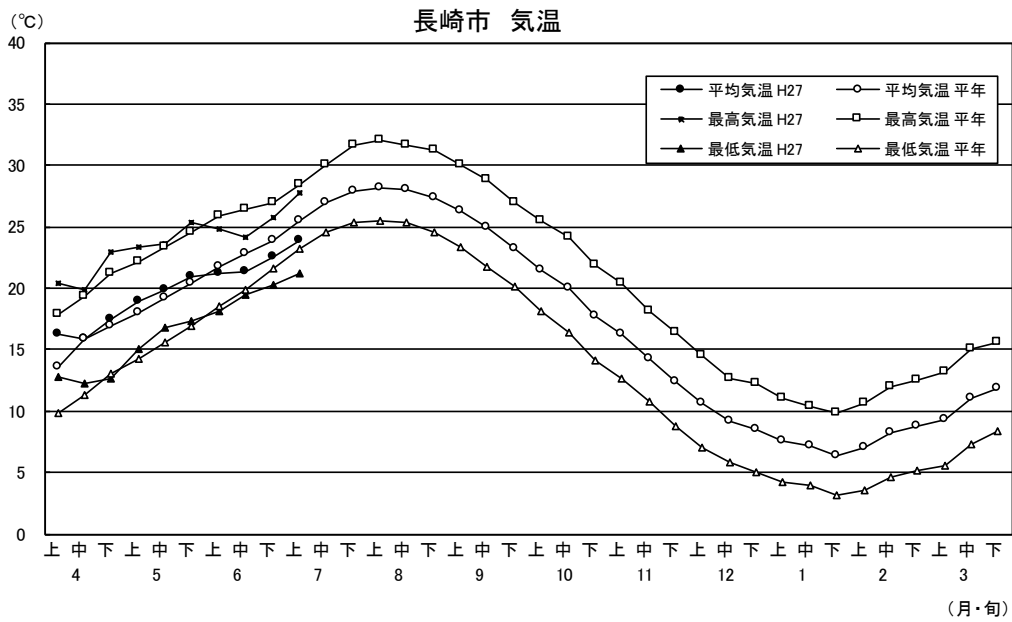
気象 (平成27年7月9日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40	30	30
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

平成27年度の気象経過 (長崎地方气象台)



○ 6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

○ 水稻穂吸汁性カメムシ類防除のため水田に散布する殺虫剤により、「蜜蜂」に被害が生じる可能

性がありますので、十分な配慮をお願いします。

○長崎県病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話をお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027

